

## DSD/JICA Project on Disability

Department of Social Development (DSD) / Japan International Cooperation Agency (JICA)  
Project for the Promotion of Empowerment of Persons with Disabilities and Disability Mainstreaming



### JICA 沖縄センターで DEM アプローチ研修を行いました！

2018年12月3日から14日に沖縄で「地域に根ざしたインクルーシブ開発に向けた障害者のエンパワメントと障害主流化（Disability Empowerment and Mainstreaming : DEM）アプローチの促進」に関する研修を実施しました。研修には、社会開発省本省から1名、協調自治伝統省から1名、フリーステート州の社会開発省から2名、州知事室から1名、障害者3名、クワズル・ナタル州社会開発省から1名、障害者1名、介助者4名の計14名が参加しました。

DEM アプローチは、コミュニティで障害者グループが中心となり、社会開発省や地方自治体などの行政官と協力しながら活動を実施し、障害者の社会参加やサービスへのアクセス向上を目指すための持続可能な方法・進め方です。障害者のエンパワメントに関する活動は、ピアカウンセリングや障害者自助グループの設立・強化、障害主流化に関する活動は、障害の社会モデルを通じた啓発、アクセシビリティ改善などを行います。この研修は、参加者が沖縄の事例に学び、南アフリカの

状況に合わせ実施可能な活動計画を作成し、DEM アプローチを南アフリカで実践・拡大・モニタリングしていくことを目的としていました。



(写真) コースオリエンテーションの様子

研修1週目は、主に障害者運動の歴史や自立生活など障害者のエンパワメント、そして障害者と行政の連携に関する講義や視察を中心としたプログラムでした。フリーステート州知事室で行政官として働くシプリアンさんが、特に印象に残ったのは重度障害者の自宅訪問でした。「南アフリカでは、重度の障害者は病院に一生にいる人も少なくなく、大きな問題となっています。しかし、沖縄では障害者が介助者を使い、バリアフリーな公共交通機関を利用して外出していることや社会参加し

ていることにとっても感銘を受けました。また、介助者を派遣している自立生活センターが障害者によって運営されていることも大きな驚きでした」と語ってくれました。



(写真) 自立生活センターイルカ訪問

研修 2 週目は、アクセシビリティに重点を置いた障害主流化と、活動計画作成を中心としたプログラムでした。アクセシビリティの促進では、講義だけではなく、アクセス監査スキルの習得ワークショップ、電車やバスなどの公共交通機関の試乗、バリアフリー公共施設の訪問、JICA 沖縄センターでのアクセスチェックなどの実習を取り入れ、参加者が体験を通じて学べる構成となっていました。参加者たちは、沖縄のアクセシブルな環境が、障害者の社会参加に不可欠であることを体験を通じて学びました。また、アクセス監査活動はすでにフリーステート州で開始していることもあり、フリーステート州の障害者が南アフリカの事例を他の参加者に伝える様子も見られました。

これらの講義、実習などを踏まえ、参加者たちは研修の最後に帰国後の活動計画作成しました。例えば、フリ

ーステート州からの参加者は、①障害の社会モデルを活用した関係者およびコミュニティの啓発、②障害者自助グループの設立、③ピアカウンセラー研修、④アクセス監査、⑤もう 1 つのプロジェクトサイトであるリンポポ州視察訪問、⑥関係者とのミーティング、⑦定期的な進捗報告書作成の 7 つの活動からなる活動計画作成しました。



(写真) アクセス監査ワークショップの様子

今後、プロジェクトチームは、作成された活動計画のフォローアップを行い、研修参加者たちと共に南アフリカで DEM アプローチの実施、拡大を進めていく予定です。

最新のプロジェクト進捗状況は、プロジェクト Facebook ページをご覧ください！

JICA SADEM :

<https://www.facebook.com/jicasouthafricadisabilityempowermentmainstreaming/>

編集:

鷺谷  
上岡

大輔 [DaisukeS@dsd.gov.za](mailto:DaisukeS@dsd.gov.za)  
廉 [RenK@dsd.gov.za](mailto:RenK@dsd.gov.za)